

令和4年度 学校評価 (年度末評価)

栄徳高等学校

<p>校訓 「誠実で信頼される人に」</p>	<p>めざす学校像 ・夢を実現させる学校 ・豊かな人間性を培う学校 ・健康な心身を育む文武両道の進学校</p>		
<p>教育目標 高校生として常に明確な目標を持ち、真剣に事に当たる習慣をつけ、豊かな人間性、強い気力、体力、幅広い知性を身につける。</p>			
評価項目	重点目標	具体的取組	評価及び次年度への課題
<p>&lt;総務部&gt; 「協働・組織」意識の構築と組織改革</p>	<p>1 毎年、毎学期繰り返し行われる業務内容の見直しとマニュアル化 2 他分掌担当者とのコミュニケーション外来者に対する積極的対応と情報収集 3 HP掲載情報収集のシステムの構築とHPのPR活動</p>	<p>1 業務内容の見直しを行い必要な業務についてマニュアル化を図り質の向上も図る。 2 他分掌や外部機関・企業との建設的な関係を維持し常に新しい情報を収集する環境を整える。 3 HPの更新頻度を週1回以上に上げる。</p>	<p>1 業務内容の再整理により、作業効率の向上が見られ、時間短縮につながった。ただし業務のマニュアル化については継続課題とする。 2 予定していた形が変更となり、新たな方法の開拓が必要。 3 HPの閲覧数はかなり向上した。更新頻度を上げたことで内容の信頼度が増し、外部から本校の情報を得たい場合に貢献していると考えられる。</p>
評価項目	重点目標	具体的取組	評価及び次年度への課題
<p>&lt;教務部&gt; 学習指導</p>	<p>1 観点別評価の実施を通して、授業及び学習支援方法を研究し、教員の授業改革と指導力向上、生徒の授業満足度の向上を図り、学習環境に起因する成績不振、転退学者を減少させる。 2 教務関連の作成書類、成績処理、各種手続き等の事務作業を抜本的に見直し効率化を図る。 3 生徒の学習内容の定着と、探究活動を含め、自発的に学習する姿勢を身につけさせる。</p>	<p>1-1 授業欠課時数が多い生徒に対して、学期ごとに補充指導等の適切な支援を行い転退学者数の抑制を図る。 1-2 不登校生徒に対してオンライン授業を実施し学習の機会を保障し、そのために必要なルールを策定する。 1-3 授業参観を実施し保護者アンケートをとり、授業の問題点や改善点を把握し、教職員で情報を共有する。 1-4 公開授業の内容を再検討し教員のスキルアップにつながるよう改善する。 2-1 教務関連の書類や手続きをマニュアル化する。 3-1 スタディサプリの効果的な活用法や到達度テスト等の結果を検討し学力向上策を図る。 3-2 考査前に考査範囲一覧表、学習計画表を配信する。 3-3 英単語コンテスト、基礎学力コンテストを実施する。 3-4 リメディアル講座の実施</p>	<p>1-1, 2 転退学者に若干の増加がみられる。転学につながる生徒の増加防止のために、欠課時間早期に段階的に指導を行い、転学へとつながる欠課時数超過生徒を減らす取り組みを実施する必要がある。また、非常勤講師の先生方との協調と連携を積極的にはかり教育活動を行っていくとともに、単なる学習支援だけでなく不登校、問題行動生徒へのソーシャルスキルや集団適応力を高める教育を検討し実施する。 1-3, 4 公開授業・研究協議会・授業参観・保護者アンケート等、教育の質向上をはかる目的で実施。次年度は公開授業を前期・後期に分けるとともに、前期の公開授業は授業参観と並行して実施するよう予定を組んでいる。授業参観の保護者アンケートとともに授業内容を研究協議会で検証し、後期の公開授業へフィードバックしていきたい。 3-3, 4 自発的な学習を促すため英単</p>

			語コンテスト、基礎学力コンテスト、リスタディサプリの活用、リメディアルや追試等を実施しているが、さらなる向上を目指し抜本的な見直しを行いより効果のある方法を考え実施する計画である。
評価項目	重点目標	具体的取組	評価及び次年度への課題
<生活指導部> 生活指導	<p>1 生徒が自ら積極的に挨拶する習慣を身につけ日頃から挨拶の飛び交う学校を目指す。</p> <p>2 服装・身だしなみの指導を徹底し、指導カードの枚数を前学期より減少させる。</p> <p>3 いじめゼロ、不登校10名以下を目指す。</p> <p>4 生活指導に関する規定を見直す。</p> <p>5 栄徳五訓を生徒全員が暗唱できるようにする。</p> <p>6 風紀委員会の活動を活性化する。</p> <p>7 通学中の自転車事故10件以下を目指す。</p>	<p>1-1 風紀委員による挨拶運動を継続して行う。</p> <p>1-2 挨拶について生徒指導科教員→学年会→全教職員へと発信する。</p> <p>1-3 昼の放送で挨拶の励行や身だしなみに対する注意を呼びかける。</p> <p>2-1 新生生に対して「制服講話」を実施する。</p> <p>2-2 校則違反について生徒が納得するよう丁寧に指導する。</p> <p>2-3 各学年で注意が必要な生徒の情報を共有し、学年全体で指導する体制を作る。</p> <p>3-1 学年団や担任と連絡を密に取りからかいや嫌がらせがいじめに発展する前に対処する。</p> <p>3-2 いじめの可能性がある場合は、「いじめ防止対策委員会」を開き迅速に学校全体で対処する。</p> <p>3-3 定期的に非常勤講師にアンケートを行い、気になる生徒について情報を得る。</p> <p>4-1 生徒心得を課会で見直す。</p> <p>4-2 私立高校生徒指導部会やデイン協議会で他校の情報を収集する。</p> <p>5-1 学年集会や指導部長講話を通して生徒に浸透させる。</p> <p>6-1 風紀委員会を月1回程度開き各クラスで内容を報告する。</p> <p>6-2 風紀委員会で挨拶や身だしなみについて話し合う機会を設ける。</p> <p>7-1 「事故発生マップ」を作る。</p>	<p>1-1 風紀委員に対し事前指導を継続し、以前よりも挨拶の励行が顕著となった。</p> <p>1-2 全教職員に対してさらに徹底をはかりたい。</p> <p>1-3 放送部とのタイアップは次年度へ先送りする。</p> <p>2-1 制服の正しい着方について指導する機会を設けた。</p> <p>2-2 携帯電話使用方法に今後着目したい。</p> <p>2-3 指導カードは学年会を通して担任と共有した。</p> <p>3-1 学年や担任とは密に連絡を取り、いじめに発展する前に対処できた件は多くあった。</p> <p>3-2 「いじめ防止対策委員会」は2回開き、迅速に対応することができた。</p> <p>3-3 アンケートは時間的にとることができなかったが、必要な場合にお話を聞くことはできた。</p> <p>4-1 時間をかけて見直す方向で確認をしている。</p> <p>4-2 他校の先生方とコミュニケーションをしっかりととり、情報を収集することができた。</p> <p>5-1 学年集会では生活指導部の教員からの講話を行った。</p> <p>6-1 風紀委員会は挨拶身だしなみ重点指導週間のたびに開催できたが、クラスでの報告が今後の課題である。</p> <p>6-2 委員会として議論の場を持つようにしていきたい。</p> <p>7-1 「事故発生マップ」の作成はできていないが、自転車事故の発生件数は2年前と比べ半減している。</p>

評価項目	重点目標	具体的取組	評価及び次年度への課題
<p>&lt;特別活動部&gt; 特別活動</p>	<p>1 生徒会を中心に生徒が主体的となる行事を作る。 2 部活動への入部を推奨する。</p>	<p>1-1 生徒会と顧問が連携し主体的な行事を実施する。 1-2 一月2回以上のミーティングを実施する。 1-3 来年度に向け1学期に遠足を検討する。 2-1 新入生へ部活動の意義を説明し入部を呼びかける。 2-2 部活動の生徒が学校生活の見本となるよう学校生活を送らせる。 2-3 部活動のキャプテン会議を実施する。</p>	<p>1-1 少ない時間を有効に使い何とか行事は成功に終わった。 1-2 実行はできたが、もう少し時間を確保したい。 1-3 遠足の検討はできなかったが、一学期の球技大会がなくなり、学年末考査後の栄徳杯もなくなるため行事の検討を来年度行わなければならない。 2-1 加入率は76%。目標は達成できた。 2-2 コロナ前までとはいえないが、活気ある活動ができている。スポーツクラスができたため他部活動との活動時間等を検討する必要がある。 2-3 学年末の最後に実施予定。</p>
評価項目	重点目標	具体的取組	評価及び次年度への課題
<p>&lt;保健部&gt; 学校保健および教育相談</p>	<p>1 日常の校内美化活動を啓発する  2 担任との連携をとりながら適切な指導をする  3 入学時の情報を踏まえ、学年・担任と連携して指導にあたる  4 感染症対策</p>	<p>1-1 担当者による校内巡視指導、行事前の担当者への依頼、保健部点検 1-2 新任教員への清掃指導 1-3 清掃マニュアルの配布 1-4 定期的な清掃状況の確認 2-1 保健室来室回数、相談内容、欠席状況を把握してSC、学年、担任と協力する。 2-2 SCと情報を共有する。 2-3 生活指導部と連携する。 3-1 入試広報部からの情報をもとにSCとチェックを行い、支援すべき生徒を把握する。 3-2 教科担当者が生徒情報を確認できるよう職員室に要配慮生徒一覧を置く。 3-3 QUの結果を有効活用する。 4-1 タブレットを使った健康調査方法を検討する。 4-2 保護者からの連絡をもとに、管理職とともに情報を共有する。 4-3 感染予防行動の啓発をする。</p>	<p>1 校舎内の清掃全般においては概ね良好な状態であったと思われる。 2 2学期は本校においても新型コロナウイルス感染症・濃厚接触者が激増しその対応に翻弄されたが、保健室の対応はしっかりできた。 ・WBG T計測器を設置し、視覚的に熱中症対策を生徒に考えさせる取り組みを行った。 ・体育大会では高温多湿な状況の中、救急搬送をゼロに抑え、生徒が安全に参加できた行事であった。 ・今年度は保健室と生活指導部の協力場面が多かった。 3 来室生徒の様子や、担任からの報告により中学校からの申し送り情報や、要配慮生徒の把握の重要性を考えさせられた。 4 夏期休業中に端末を用いた健康調査の実施に向けて検討を行いフォームを作成した。芸術鑑賞会時に運用を試みたが、各クラスともに全数の把握ができなかった。今後さらに検討を続けたい。</p>

評価項目	重点目標	具体的取組	評価及び次年度への課題
<進路指導部> 進路指導	1 学力向上  2 生徒の進路意識を高める。 3 具体的な数値目標を立てて進路指導を行う。(国公立 30) 4 模試の分析、出願検討を担任任せとせず、進路部主導で行う。 5 Super、選抜の枠を超え、生徒・教員交流を行う。	1 模試の結果を職員会議で公表し、教科会で分析し対策を話し合う。 2 様々な集会を利用し、進路意識を高める。 3 スタディサプリの活用  4 比較対象校の設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・南山大学の合格者数は予想通り減少したが、関関同立以上の難関私大の合格者数を増加させることに成功した。</li> <li>・名城大学理系合格者が予想以上に増えず、苦戦を強いられた。</li> <li>・国公立は苦戦。次年度への大きな課題とする。</li> </ul>
評価項目	重点目標	具体的取組	評価及び次年度への課題
<情報センター> ICT環境整備と情報活用	1 教職員、生徒ともにアプリケーションの面からPCが有効活用できるように支援する。  2 校内PC環境を整備する。	1-1Forms による小テスト作成の方法を研究し発信する。 1-2PowerAutomate を研究し Teams での作業内容が自動化できるようにする。 1-3OneNote の利用法を研究し発信する。 2-1PC 入れ替えに伴い、旧 PC を再利用するための方策を研究し、PC 環境の充実を図る。 2-2 2 学期から 1 年生の健康観察を Teams で行えるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康観察の teams での実施を試みたが不具合も多く次年度への課題としたい。</li> <li>・PowerAutomate を研究し、いろいろな作業を自動化できないか研究したが、難解な部分が多く研究途中である。1 年生の欠席連絡に利用した。</li> <li>・1 年生 surface の破損やビットロッカーなどの様々な問題が発生し、対処することはできたが次年度に向けて防御する方策を検討していきたい。</li> </ul>
評価項目	重点目標	具体的取組	評価及び次年度への課題
<国際センター> グローバル化の推進	1 校内のグローバル化を推進する。	1-1 姉妹校交流の実施  1-2 海外留学生の受け入れ  1-3 帰国子女入試の募集促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>1-1・ダニバーク高校・ホライズンクリスチャン高校との交流は実施せず。来年度実施をしていく予定である。 ・泳薫高校：6月のオンライン交流および8月の訪問および1月来校に関して、参加生徒の募集や準備を計画的に進めて無事に実施できた。 (課題) 姉妹校交流実施に関するマニュアルの作成。</li> <li>1-2・9月からフランス人留学生を受け入れた。 (課題) 留学生の数を増やして国際交流をさらに活性化させたい。</li> <li>1-3・帰国子女入試に関しては、入試広報で対応することになったため、未実施。</li> <li>1-4・8月に夏期国内英語研修を実施した。参加生徒は10名と</li> </ul>

	<p>2 国際言語コースの学習活性化を図る。</p>	<p>1-4 語学研修の実施・夏期語学研修の計画、実施</p> <p>2-1 栄徳独自の特色あるカリキュラムの構築</p> <p>2-2 国際言語クラス2年生の学習の活性化及び編入生との増加</p> <p>2-3 国際言語クラス3年生の受験サポート</p> <p>2-4 名古屋外国語大学や関西外国語大学との連携授業や高大連携入試の実現に向けて計画を行う。</p>	<p>なり昨年から2倍に増えたが、目標には至らなかった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・冬期イングリッシュキャンプは、夏期に国内研修を実施したことを踏まえ、英検対策講座として実施をした。こちらも目標の10名に達しなかったが、6名の生徒が参加した。</li> </ul> <p>(課題) 国内研修の場合は募集が難しい。来年度以降は海外研修を実施する予定であるが、日程なども含めて生徒にとって魅力のある研修の立案を目指す必要がある。</p> <p>2-1・天翔の時間での探究活動(イギリス調べ)やオンライン教材を用いた多読教材を使用した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・募集説明会で現行クラスの学習内容を紹介することで、中学生により具体的なクラスのイメージを示すことができた。ニュージーランド留学の募集にも力を入れた。</li> </ul> <p>(課題) イギリス留学実施により得られた情報を説明会で提供することで、生徒募集に生かす。</p> <p>ニュージーランドの具体的な情報が不足しているため情報収集を行う必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国際言語1年生の英検2級受験者が2名でともに不合格。2年生でもカナダ留学後の2級受験者は4名で2名が合格。</li> </ul> <p>(課題) 1年生は留学前に2級を取得させることで、1年留学後にはすぐに準1級に挑戦させるようにしたい。また3ヵ月留學生徒に関しては、留学前に準2級の取得、帰国後に全員が2級を受ける体制を整えていきたい。</p> <p>2-3・自己推薦型の入試で英検を利用することで志望校に合格する生徒が多数いたが、英検を利用できない学部や大学を志望している生徒も数名いた。</p> <p>(課題) 愛知県外の大学で英検利用入試を実施している大学</p>
--	----------------------------	--	--

			<p>を私立大学だけでなく、国公立大学も視野に入れてリストアップして、英検利用での大学合格者を増やしたい。今年度、国公立大学や南山大学の合格者はいなかったが、明治大学・青山学院大学・法政大学の合格者を出すことができた。</p> <p>2-4・関西外国語大学でのキャンパスツアーを実施することになった。来年度、新3年生は5月、新2年生は12月に実施する予定である。</p> <p>(課題) 関西外国語大学ツアーは毎年2年生の12月に行う予定ある。県外の国公立大学(静岡県立大学など)のキャンパスツアーに関しても計画をしていきたい。</p> <p>3・国際言語コースは全員受験、その他の生徒についても学校全体で英検受験を告知する。</p> <p>・国際言語1年生は留学前に準2級をほぼ全員が受験した。2級の受験は2名のみであった。2年生はカナダ留学後に全員が英検を受験したが、準2級の生徒が多く2級の受験者は3名のみであった。学校全体でも、英検の受験者数は少しずつ増えている。</p> <p>(課題) 学校全体での受験者数を増やすために、英検を利用できる大学一覧を配布するなどの工夫をしていく必要がある。</p>
	3 英検の受験者数の拡大と資格合格者の増加を目指す。	3-1 国際言語コースは全員受験、その他の生徒についても学校全体で英検受験を告知する。	
評価項目	重点目標	具体的取組	評価及び次年度への課題
<入試広報部> 生徒募集	<p>1 入学者の目標数を設定し、目標が達成できる生徒募集計画を作成</p> <p>2 生徒・保護者・中学校教員への周知を図る幅広い広報活動の実施</p>	<p>1-1 過去の受験者数や入学者数を分析し、入学者の目標数を地域ごとに設定し、目標430名の達成を目指す。</p> <p>1-2 学習合宿所の活用を情宣するとともに、受験生や中学校教諭が見学(利用)する機会を設ける。</p> <p>2-1 案内チラシやポスターを活用し見学会などへの積極的な参加を促す。</p> <p>2-2 中学校教員に参加の働きか</p>	<p>○受験生に本校の良さが確実に伝わるように工夫し、中学校の進路指導主事とのつながりを大切にして、生徒募集活動を進めてきた。その結果、推薦はここ数年では数が多かった昨年を4名上回り334名になった。一般も昨年より229名増加、1,282名になった。年度当初の目標は達成できた。</p> <p>○国際言語クラスの推薦受験者が昨年の2倍、10名になったが、目標の15名には届かなかった。</p>

	<p>3 生徒募集は全職員で行うことを共通理解し、職員の意識高揚を喚起していく。</p> <p>4 全校体制での見学会・説明会に向けて、具体的な計画案の作成</p> <p>5 生徒・保護者の関心を高める学校案内やチラシの作成</p> <p>6 学校ホームページの一層の活用</p> <p>7 進学塾への周知を図るとともに、関係塾に焦点を絞った広報活動を実施</p>	<p>けを依頼する。</p> <p>3-1 全教職員参加の共通理解のもと、職員全員での広報活動を推進する。</p> <p>4-1 見学会・説明会において、講座実施の状況や部活動実施の状況などを把握し、全校体制での見学会・説明会実施に向けて職員の役割分担を作成する。</p> <p>5-1 手にとって見てみようと思う学校案内、入学したいという意欲を持たせることができるような入学案内を作成する。</p> <p>6-1 HP担当者と連携し、常にホームページを確認し、リアルタイムで情報を提供できるように心がける。</p> <p>6-2 ネット出願を含め、多くの情報がネット上でやり取りされる。情報の一元化、効率的・有効的活用に心がけ、情報漏洩がないようにセキュリティの強化に努める。</p> <p>7-1 広報誌や新聞などを活用し、栄徳高校の特色やよさを積極的に進学塾にアピールし情宣する。</p> <p>7-2 担当地区全体に資料を配布し、その中の重点塾を訪問し連携を強化する。(訪問目標：1学期150塾、後期180塾)</p> <p>7-3 塾対象説明会の内容を精選し、志願者増加につながるよう効果的に開催する。</p>	<p>S文は推薦が8名、一般志願者が283名と一般は増加したが、推薦は昨年と同じとなった。説明会で整った学習環境や進学率の良さを説明したが、新たな工夫や方略が必要である。</p>
--	--	--	---

評価項目	重点目標	具体的取組	評価及び次年度への課題
<p>学年指導 &lt;1学年&gt;</p>	<p>1 「シンエイトク」伝統と革新を学年目標とし、これまでの伝統を重んじながら新しいカリキュラム、コースの今後の礎を作り上げていく。</p> <p>2 安全安心なクラス・学年とする。</p> <p>3 基本的な生活習慣・学習習慣の確立</p>	<p>1-1 誠実さを基にコミュニケーションをとり、生徒と教師の信頼関係を築く。</p> <p>1-2 あいさつの徹底を行う。</p> <p>2-1 教師がゆとりを持ち、落ち着いた環境を作る。</p> <p>2-2 清掃・帰りST後の環境美化に努める。</p> <p>3-1 学年会で生徒の基礎学力の状況など、分析の機会を多く設ける。</p> <p>3-2 リメディアルの導入、成績下位層の成績向上を図る。</p>	<p>1-1 特に大きな問題もなく1年間うまく学級経営がなされていたと思う。</p> <p>1-2 あいさつの徹底は学校全体の取り組みが必要。</p> <p>2-1 授業、教材研究などの時間が十分とれていなかったか不安。</p> <p>2-2 年間を通してクラスに若干のばらつきがあった。</p> <p>3-1 懸案事項が多い。今後検討したい。</p> <p>3-2, 3 D3の生徒は後半のリメディ</p>

	4 探究活動・「天翔の時間」の充実	3-3 G T ZのDの生徒を極力少なくする。 4-1 3年後を見据えた指導。	アルで減少した。 4-1 3年後を見据えた指導。 学年として十分な学力分析をするには至らなかった。現状各教科での分析に頼らざるを得ない。
評価項目	重点目標	具体的取組	評価及び次年度への課題
学年指導 < 2学年 >	1 校訓「誠実で信頼される人」を学年目標とする。 2 安全安心なクラス・学年とする。 3 基本的な生活習慣・学習習慣の確立 4 各コースの特色 5 生徒の特質、資質に応える指導	1-1 誠実さを基にコミュニケーションをとる。 1-2 朝のSTが定刻に始まるようにする。 2-1 教師がゆとりを持ち、朝のSTから落ち着いた環境を作る。 2-2 清掃、帰りのST後の環境美化に努める。 2-3 アンテナを張りいじめが起きないようにする。 3-1 探究活動の充実。最終的にはパワーポイントによる発表。 3-2 遅刻の多い者の指導。 3-3 S文理は、 <sup>ベ</sup> 初め偏差値 60 全統偏差値 55 選抜文理は、 <sup>ベ</sup> 初め偏差値 52 全統偏差値 47 4-1 2年後を見据えた指導。国公立、S文理 20、選抜文理 10 4-2 各コース思い出に残る修学旅行となるようにする。 5 各学期に最低1度は、クラス担任と生徒の面談を実施する。	1-1 文化祭・体育祭等生徒とのコミュニケーションがとれていた。 1-2 朝のSTが定刻に始めることができた。 2-1 教師がゆとりを持ち、朝のSTから落ち着いた環境を作れていた。 2-2 清掃・帰りST後の環境美化に努めた。ほぼできていた。 2-3 生徒観察のため情報アンテナを張るように心がけた。 3-1 パワーポイントによる発表ができた。 3-2 学年主任より指導した。 3-3 目標に対してはさらに努力したい。 4-1 2年後を見据えた指導をしていた。国公立、S文理 20名。選抜文理 10名を目標とした。 4-2 各コース、思い出に残る修学旅行ができた。 5-1 各学期に最低1度のクラス担任と生徒との面談の実施ができた。



評価項目	重点目標	具体的取組	評価及び次年度への課題
学年指導 ＜3学年＞	1 学年目標「夢を持つよう、夢を見つけよう」、 2 国公立合格者過去最高合格を目指す。 3 第一志望校を目指す。 4 転退学者を5名以内にする。	1-1 ST・HR では落ち着いた環境を作り、担任と生徒との信頼関係を築く。 2-1 Sと選抜や進学クラス同士での密なミーティングを行う。 2-2 S選抜組の数学を6月の模試でAからS判定にワンランク上げるための努力をする。 3-1 第一志望届を作成し、明確な志望校を絞り込む。 3-2 常に大学の情報を共有し、指定校・一般推薦のチャンスも生かす。 4 各担任と連携し、必要があれば保護者や生徒との面談をする。	1 担任との面談時間を多く取り、将来の目標を持つことが出来た。 2 Super と選抜4クラス同士での話す時間が取れ、受験校を絞る情報交換が出来た。 3 指定校推薦による第一目標への合格が増えた。 4 転退学は極めて少なかった。